

Regenerative Forest 「巡る森」～時代を繋ぐ棧橋～

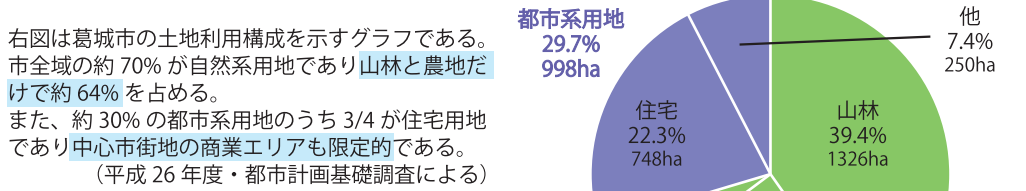
2025 年夏、私達は観測史上最も暑い夏を過ごす。

計画地のある葛城市は、日本の国技である相撲発祥の地として知られ、古代の遺跡や近世の寺院や古墳などが多く点在する歴史由緒ある地域である。
また、西に金剛葛城山系が近接し、そこから流れる豊かな水が、川や水路、溜め池を通して田畑に運ばれ、永く人々の生活を支えている。

計画地は、溜め池「中戸新池」を森が覆い、その中に 1983 年に建設された地域住民のための社会教育研修施設が 3 棟佇む。

私達は、この森に「時代を繋ぐ棧橋」をかけ、葛城の歴史・文化を再編することで場所の活気を取り戻し、人々の交流を促進することを目標に掲げる。

Regenerative Forest 「巡る森」は、令和 3 年に惜しまれながら閉館を迎えた地域住民の交流拠点だった建築と場所を、外部からの集客や移住者を取り込み、新たな賑わいと営みをつくることで、人と自然と建築との共生可能な関係性を再構築するための提案である。



近年の街の課題としては以下が挙げられる。

- ・人口減少・高齢化（特に農村部）
- ・中心市街地の商業の衰退
- ・大阪圏への依存と地域内消費の弱体化

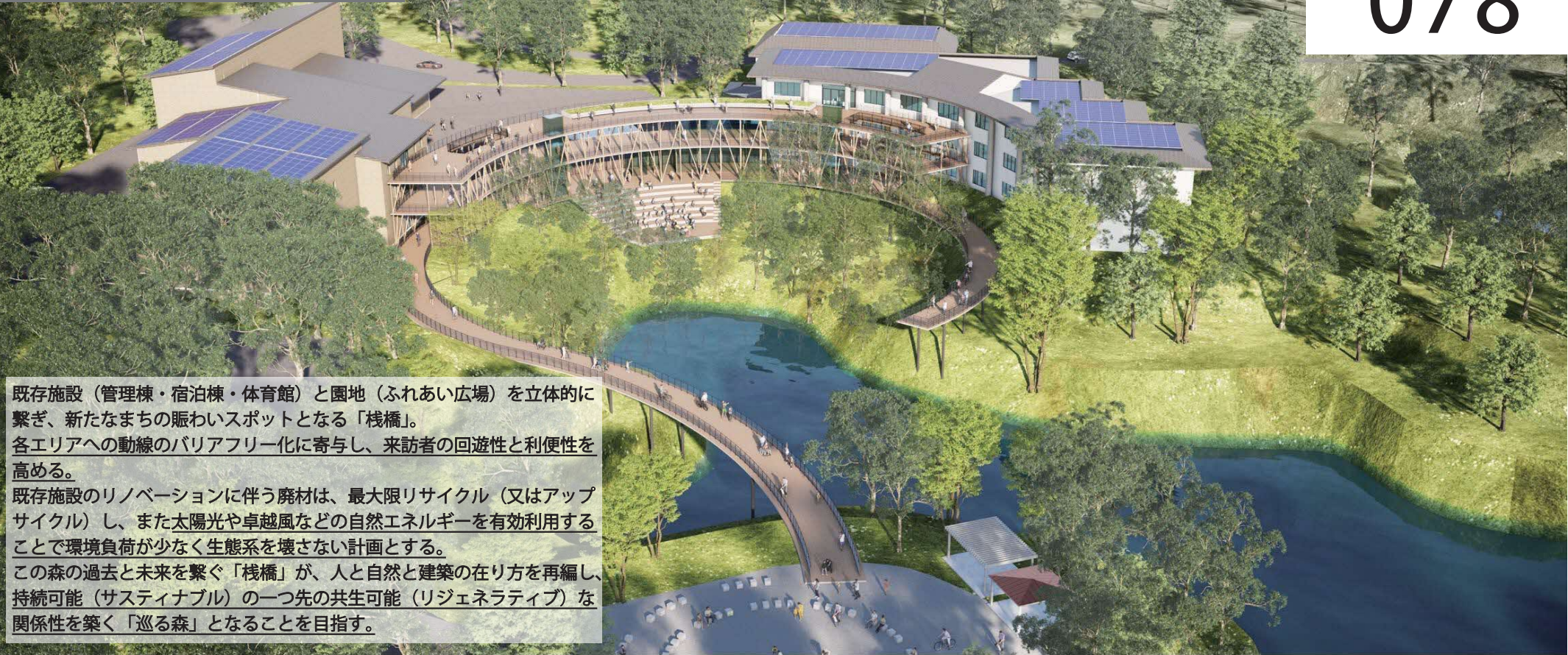
Regenerative Forest 「巡る森」 人と体験の相関表

★は今回の提案で付加される体験を示し、●は既存施設で既にあった体験を示す

人	地域住民	観光（日帰り）	観光（宿泊）	長期滞在・移住	対象建物・エリア
体験					
学び	★●	★	★	★	① 管理棟、④ 棧橋（ギャラリー）
宿泊	★●	★	★	★	② 宿泊棟（ホテル）
飲食	★●	★	★	★	① 管理棟、② 宿泊棟（レストラン）
交流	★●	★	★	★	① 管理棟（ギャラリー、スタジオ）
自然体験	★●	★	★	★	② 宿泊棟（自然体験）
芸術鑑賞	★	★	★	★	① 管理棟（ギャラリー、劇場）
買い物	★	★	★	★	① 管理棟（アウトドア物販店舗）
運動	★●	★	★	★	③ 体育館、② 宿泊棟（フィットネス）
遊び	★●	★	★	★	① 管理棟（プレイルーム）、⑤ 園地

上表は、今回の提案で新たに付加される人と体験の相関表である。
これまで市民のための研修・教育・余暇施設であったものに対して、葛城の地域特性と恵まれた自然環境を生かして地域住民だけでなく外部からのツーリストや長期滞在者、移住者を誘引する仕組みをつくる。
研修施設であった管理棟は、アーティストインレジデンス（作家滞在型制作）活動のためのスタジオと制作の展示や発表を行うギャラリー・劇場にリノベーションし、芸術鑑賞しながら地域との交流も生まれる場へと変換する。また 1・2 階には葛城山系へのアウトドアツーリストをターゲットとしたアウトドアショップを誘致し賑わいを創出する。
宿泊棟は既存機能を生かして、ロードバイク運び込み可のゲストルームと地産地消レストランにリブランディング。また、アウトドアギアレンタルショップとフィットネスジムを併設し、食・健康・自然を気軽に体験できる場所へと変換する。
そして、新設する地元吉野杉でできた「棧橋」は、これら用途を繋ぎ合わせて葛城の自然と歴史を来訪者に伝える架け橋としての役割を持たせると同時に、ふれあい広場まで繋がることで園地の回遊性の向上とバリアフリー動線の充実に寄与する。

【Regenerative Forest 「巡る森」鳥瞰図】



既存施設（管理棟・宿泊棟・体育館）と園地（ふれあい広場）を立体的に繋ぎ、新たなまちの賑わいスポットとなる「棧橋」。
各エリアへの動線のバリアフリー化に寄与し、来訪者の回遊性と利便性を高める。
既存施設のリノベーションに伴う廃材は、最大限リサイクル（又はアップサイクル）し、また太陽光や卓越風などの自然エネルギーを有効利用することで環境負荷が少なく生態系を壊さない計画とする。
この森の過去と未来を繋ぐ「棧橋」が、人と自然と建築の在り方を再編し、持続可能（サステナブル）の一つ先の共生可能（リジェネラティブ）な関係性を築く「巡る森」となることを目指す。

